令和７年度　学校評価報告書　　耕雲寺幼稚園

評価項目の達成及び取組状況と評価委員会の評価価項目の達成及び取組状況

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
① 保育の計画性	A	年間計画、月間計画、期間計画を立て実行している。教員間で意見を出し合い、学年間の意思疎通を図り基本に則ったうえで、新しい試みを計画し実行している。教員によっては保育の準備が十分でない、保守的になっている、と感じている。	A	学年ごと、クラスごとに、多様な活動を心がけている。常に保育内容を刷新する努力がみられる。若い先生の新鮮なアイデアを期待する
②保育のあり方 幼児への対応	A	クラス全体の運営を考えながら、個々の子どもの様子・成長に配慮することを意識して、保育を行う事が出来ている。子どもの自発性をくみ取る努力をしている。発達障害の園児に関係機関と連携し対応している。バス置き去り事件、不適切保育事件を忘れずに、マニュアルに沿った安全管理を徹底している。	A	個々の子どもの発達に合わせた保育を心掛けている事を評価する。 障害園児への対応も努力している。 さらに、発達年齢に合わせた環境づくり、子どもが思ったことを伝えやすい保育を工夫する余地がある。
③教師として資質 能力、適正等	A	多数の教員が、教員としての高い資質を持っているが、教員によっては厳しい自己評価をしている。教員が誇りを持って仕事ができる環境の構築や、精神的なサポートにも努めたい。	A	殆どの教員が、明るく、元気に子どもに接している。教員としての自覚も高い。保護者の信頼も大きい。
④保護者への対応	A	概ね問題なく対応している。言葉の行き違いなどにより保護者の感情が悪化することがあることに気を付けて、職員同士で反省しあうことをしていきたい。園全体で対応については徹底しているため、トラブルも減っている。発達障害を持つ園児の保護者ともよく意思疎通を計れている。	A	子どもの様子をこまめに連絡するなど、保護者との関わる時間を取る努力が感じられる。
⑤地域の自然や地 域との関わり	B	地域の自然や社会とのかかわりが弱いと感じている教員が多いが、園の立地面・安全面から難しいところもある。 教材の利用、花や野菜を育てること、芋掘り等で、生物に対しての関心を高めている。	B	小学校との交流ができている。園外保育・学年遠足で、自然の体験をしている報告があった。先生方が、地域や自然を意識していることは感じられた。
⑥研修と研究	A	県振興協会主催の研修に参加をしている。リモートによる研修が増えたことで、多くの職員が積極的に参加している。	A	毎日忙しく大変だと思うが、向上心を持って意識的に視野を広げ、保育の幅を広げてほしい。

※評価点の表示方法

A: 充分に成果があった　　B: 少し成果があった　　C: あまり成果がなかった